

【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名 外山琢

本研究は、高齢者に生じる眼の加齢性変化である後部硝子体剥離(PVD)と白内障についてその病態理解と治療の有効性・安全性に関する調査を行ったものであり、下記の結果を得ている。

1. Swept-Source OCT(Optical Coherence Tomography)を使い、どのような生活習慣が PVD に影響を与えるかを調べた。その結果、継続的な喫煙習慣により、PVD の進行が遅れる可能性があることが分かった。

2. 網膜微細血管構造を非侵襲的に描出できる OCTA(OCT Angiography)を使い、PVD に伴った網膜血管の変化を調べたところ、PVD に伴って、網膜浅層の FAZ(Foveal Avascular Zone)縮小および VD(Vessel Density)低下来たす可能性があることが分かった。

3. 超高齢者に対する白内障手術の有効性と安全性について検討した。この研究より、白内障手術は 90 歳以上の超高齢者であっても、最新のデバイスを使って、熟練した外科医が手術を行えば、若年者と同様の視力の改善が期待できること、および安全に手術を行うことができることが示唆された。

4. 認知症患者に対する局所麻酔下での白内障手術の有効性と安全性について検討した。この研究より、認知症患者に対しても手術が有効であること、および局所麻酔で安全に手術を行うことができることが示唆された。

以上、本論文は高齢者に起きる硝子体の変化である PVD と、水晶体の変化である白内障について研究を行った。PVD に関しては、PVD に影響を与える要因と PVD に伴って網膜微

細構造に変化を及ぼす可能性があることを明らかにした。白内障に関しては、超高齢者および認知症患者に対する白内障手術の有効性と安全性を明らかにした。

超高齢化社会が進んでいく中で、今後、診察・治療にあたる機会の増えていく高齢者の眼の病態理解と治療の有効性・安全性についての研究は、今後の眼科医療の発展に貢献するものと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。